

## 9. 平成29年度 奈良県農業研究開発センター研究評価委員会 評価結果

平成30年2月7日開催 ホテル日航5階ゆりの間

### 評価対象課題等について

- 1) 評価対象課題  
中期運営方針に基づき平成28年度に実施した、4つの大課題に含まれる26の小課題を対象とする。
- 2) 評価方法  
必要性、達成状況、事業効果について5段階の評価を行う。評価委員会の各委員の評点を合算の上、平均値を求める。
- 3) 評価結果の活用  
農業研究開発センター所長は、評価結果を研究活動等に適切に反映させ、9未満の場合は、委員の提言に従って修正または見直しを行い、研究企画委員会へ報告する。

### 評価委員名簿

評価委員氏名	
石田裕彦	奈良県指導農業士会副会長
重岡成	近畿大学農学部長
鶴木千里	前奈良県消費生活審議会委員
福谷健夫	奈良県農林部長
山下理恵子	奈良県指導農業士会会長

### 各研究課題の評価(評価委員の平均値で記載)

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
薬用作物の 安定供給	優良品種の育成	ゲノム育種等による優良品種の育成	4.3	3.5	3.3	11.0
		・Ful遺伝子タンパク質の機能が、結果としての開花の有無に関係することを明らかにできた。今後、この知見に基づいて、優良系統の選抜、それらのトウキ根の収量増大に期待する。				
	省力・安定生産技術 の開発	省力化技術の開発 安全・安心で安定多収技術の開発	4.5	2.5	3.8	10.8
		・初めての薬用作物の栽培マニュアルの作成は評価に値する。今後、実践面での活用に期待する。 ・マニュアル記載技術により除草作業時間が著しく短縮できることは省力化の実現に有効であると思う。				
生薬以外への利用に 向けた生産技術の開発	トウキ葉の安定生産技術の開発	3.8	3.8	3.5	11.0	
	・根と葉の収量とそれらの質の問題との相関性を、より明確にすべきである。植物工場での栽培層のエアレーションが重要であることは理解できたが、これを規模も含めて実現させるためには、それらの付加価値も含めてコスト面をしっかりと見据えて取り組むべきであろう。 ・トウキ葉の食用利用が可能とのことだが、健康野菜としての市場ニーズがそもそもあるのか疑問。					
宇陀地域に適した薬 草栽培技術の開発	宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発	4.3	3.0	3.8	11.0	
	・一年目として、アウトプットが明らかな3品目の成果は順調に出ていると思うが、これ以降、安定的な収量増大、そして最終的なコスト削減を達成すべく、栽培のマニュアル化を目指してほしい。 ・この研究により宇陀地域に於いて薬草栽培が定着することを期待する。					

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
優良品種 の育成	商品性の高い新たな イチゴ品種の育成	取引に有利なケーキ店用、高級果実店用 品種の育成	4.0	3.5	3.5	11.0
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実食で個々の特徴を実感できた。コスト面を含めた安定供給と、品種登録後の販売拡大に期待する。</li> <li>・試食した高級果実店・直売用品種の2系統について、既存の他県の品種と比較して魅力に欠けた。</li> <li>・研究目的は理解するが、実際には小果はくずになって生産者の不利益にならないか。ケーキ店では、SからLまでいろいろなサイズのイチゴが必要と聞く。</li> </ul>				
	産地間競争に打ち勝 つキク品種の育成	気象変動に左右されない安定した開花特 性を持つ小ギク品種の育成	4.5	3.5	3.5	11.5
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・時期的な需要と、端境期の安定供給という視点での取り組みは、評価に値する。有望株の最終的な品種登録出願と、実質的な普及・シェア拡大を期待する。</li> </ul>				
	甘柿のない時期に出 荷できる甘柿品種の 育成	遺伝子解析技術を活用した病害抵抗性品 種の育成	4.0	3.3	3.8	11.0
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・抵抗性の育成・選抜および3か月での評価法の確立は評価するが、最終的な新品種の普及が本課題の成果の鍵となる。</li> </ul>				
	奈良オンリーワン酒米品種の育成	交配による新品種候補の作出と、遺伝子 解析による10月下旬～11月上旬に出荷で きる甘柿の早期選抜	4.8	3.3	3.8	11.8
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題目的の11月上旬までの出荷可能な柿品種の育成は評価するが、次年度でどこまで、2系統の詳細なデータ解析により、目的とする品種を見出せるかがカギとなる。</li> <li>・高級果実店で扱われるようなオリジナル柿品種の完成に期待する。</li> </ul>				
	遺伝資源の保存と活 用	奈良オンリーワン酒米品種の育成	4.0	3.0	3.0	10.0
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに交配、選抜を行い、10系統前後まで持ってこられたのは評価する。最終的な収量、品質などの調査と、お酒としての適性に期待する。</li> </ul>				
加工商品 の開発と 加工技術 の研究	イチジクなど奈良オ ンリーワン加工品の 開発	奈良に歴史にゆかりのある遺伝資源の保 存と活用	3.75	3.0	3.0	9.75
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨今の遺伝子解析状況を鑑み、大和野菜の遺伝資源の保存と活用は重要である。得られた解析データを、いかに迅速かつ効率的に世の中に公表するかで、それらの価値も変化する。</li> </ul>				
加工商品 の開発と 加工技術 の研究	イチジクなど奈良オ ンリーワン加工品の 開発	オリジナリティ溢れるイチジク加工新商 品の開発	4.5	3.8	3.8	12.0
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・イチジク加工品の完成は評価できる、今後の販売拡大に大いに期待する。</li> <li>・イチジクグラッセは美味しかった。奈良の美味しい土産物になることを期待している。</li> </ul>				
加工商品 の開発と 加工技術 の研究	イチジクなど奈良オ ンリーワン加工品の 開発	奈良彩りドレッシングの開発	3.5	3.0	3.0	9.5
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・色調に注目した本課題は、興味ある取り組みであるが、今後は試作品の保存の環境（温度、明暗など）、時間などを検討していく必要がある。</li> </ul>				

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
加工商品の開発と加工技術の研究	奈良特産品の成分分析と調理・加工法の開発	大和野菜の機能性評価と機能性を活かした新商品の開発	4.3	3.5	3.3	11.0
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・抗高血圧作用を持つネブカの新しい活性物質の定量および廃棄物からの抽出・定量の確立は評価する。ただ、タイトルにある他の大和野菜の機能評価など、全体としてブランド力強化は、今後も継続して行うべき課題と思われる。</li> <li>・「結崎ネブカ＝抗高血圧作用」ということが周知され、開発中の商品が販売されることに期待する。</li> </ul>				
	機能性成分に着目した新商品の開発	糖の吸収を抑える柿タンニンを活かした「特定保健用食品」等新商品の開発	4.5	4.5	4.0	13.0
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・柿タンニンのタブレットの販売は評価に値する。今後の販路拡大、そしてタンニンの機能性が明らかなることを期待する。</li> </ul>				
革新的な生産技術の開発	脱化学農薬！ 天敵利用技術の開発	地域や作物に応じた土着天敵活用技術の開発	4.3	3.0	3.0	10.3
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ早く、オオタバコガとクモ頭数の因果関係の明確化、クモ類への影響の少ない農薬の開発を期待する。</li> </ul>				
	脱化学農薬！ 微生物利用技術の開発	土壌への定着性を高めた微生物による土壌病害防除技術の開発	3.5	3.0	3.0	9.5
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌病害防除における納豆菌バチルス菌の微生物農薬としての利用は興味ある課題である。他の効果も含めて、実施的にコスト面も含めて可能となるように期待する。</li> </ul>				
耕作放棄地の再生と利活用技術の開発	耕作放棄地の再生と利活用技術の開発	土質に合った作物選択と水分管理技術の確立	3.5	3.0	3.0	9.5
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・耕作放棄地の再生のための6種類の作物栽培試験は興味ある課題であるが、個々に異なる放棄地での最適な作物の選択、年間と通した栽培など、適正な指導（マニュアル）が必要となる。</li> </ul>				
奈良特産品の高品質・安定生産技術の開発	奈良特産品の高品質・安定生産技術の開発	ロボット技術やセンサー技術の活用による農作業補助機械の開発	4.3	3.0	3.8	11.0
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・走行安定性の強化など、いくつかの強化は評価できるが、最終的にはコストパフォーマンスを明確にして、普及を図るべきであろう。</li> </ul>				

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
革新的な 生産技術 の開発	奈良特産品の高品質・安定生産技術の開発	DNAマーカーの活用によるウイルス等の診断技術・防除対策の確立	3.3	3.3	3.3	9.8
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・発病の品種間差、育苗期の病後薬剤の効果を明らかにしたことは評価する。迅速かつ効率的な遺伝子診断の確立が、病原菌特定と防御のカギとなる。</li> <li>・この研究により廃棄率が下がることを期待します。</li> </ul>				
		チャの早期成園化技術の開発	4.3	3.8	3.3	11.3
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・セル苗と慣行苗の生育が同等であることは評価する。3条植が2条植より、栽培が良いのはなぜか。</li> </ul>				
		日持ちの保証ができる「奈良の花」品質向上技術の開発	3.8	3.5	3.0	10.3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NaClを含む液肥を用いた花卉の日持ち効果は評価できる。多くの花卉類への効果と、その普及に期待する。</li> </ul>					
	奈良にふさわしいパイプハウス雪害対策技術の開発	耐雪対策技術の開発	4.0	3.3	3.3	10.5
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・資材による補強効果の増大、コスト削減、マニュアルの刊行による実質的な普及効果を期待する。</li> </ul>				
		雪下ろし技術の開発	3.8	3.0	3.0	9.8
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネット、マイカ線の設置などでの安定化、そして資材に検討も順調に進展している。これも技術のマニュアル化により、普及につながることを期待する。</li> </ul>					
女性に優しい農業機械の開発	女性に優しい農業機械の開発	4.5	3.0	3.0	10.5	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農林水産省をはじめとして、女性の就農者の支援が行われている状況で、農業従事への簡便化、労働力の軽減化への取り組みに大いに期待する。</li> </ul>					